

有限群に対するマッキーの τ 共役表現の理論

T. Ceccherini-Silberstein, F. Scarabotti, F. Tolli

Abstract

この論文の目的は、バンプとギンズバーグによって一般化された、対合的反自己同型（たとえば $g \mapsto g^{-1}$ ）を持つ有限群の表現論についてのマッキーの二つの貢献を、川中と松山のもっと新しい結果と共に解説することである。マッキーの第一の貢献は、弱対称ゲルファント・ペアのいわゆるゲルファント判定条件の詳しいものである。マッキーの第二の貢献は（ウィグナーによって導入された概念である）単純可約群の特徴づけである。もう一つの結果は、フロベニウス・シューアの定理のひねったバージョンであり、ここでひねったというのは上述の対合的反自己同型のことを言っている。